





⑥「教えて！ノウハウ」  
JAグループの自己改革が本格始動して2年目。着実な実践や目に見える成果が問われる。新企画で、実践的なアドバイスを。

③日欧EPA交渉開始  
⑦3月大豆3%下げる

論説「共生」の旗揚げ進もう  
テレビ・小説6面

おはよう  
〈3頁〉

花ふぶぎ生死のはては知りざりま  
（丸丸蓮子「泣きながら」）  
「生死のはて」とはまた死の果ての意ではない。生れ変わり、死に変わる仏教の輪廻の考えの果ての意であろう。人間から牛に生まれ変わり、女の間から牛に生まれ変わり、女の世では牛になり、踏まれて、先世では肺炎になってしまっ

# 新する20、30代

## 福井県若狭町

新だ。ここ十数年で新規就農者、30代の25人が、いまや町の農地の1割をカバーするようになった。その面積は230ヘクタール。50個分にも相当する農地だ。高齢化で耕作放棄が進みかねない地域農業を「力」が大きく変え始めた。（キャンペーン取材班）

東京府中市出身の宮永雄三さん（39）と神戸市出身の山本雄三さん（38）は「たてこもり農園」で朝からの農作業に励む。高齢化が進む町の農地を守りたいと、地元のパテナン農家との共同出資で立ち

## 新規就農者で230ヘクタール 全農地1割カバー

「40歳までに年間売上額を2000万円にする。それが目標だ。梅を栽培する近辺田舎さん

（30）は意気込み。就農は21歳の時。梅を栽培していた祖父の経営を引き継いだ。引継ぎの手がなければ、放棄地になりかねない。せうかくの梅産地が廃れてく。その危機感が、殊就農「につなげた。

「若者が力」キャンペーンは、次世代の担い手である若者の行動と意識を追いながら、農業・農村の未来を描きます。これまでの既成概念にとらわれず、若者の発想とその動きを、新たな風を吹かせ、地域に「化学変化」を起こします。

「若者が力」キャンペーンは、次世代の担い手である若者の行動と意識を追いながら、農業・農村の未来を描きます。これまでの既成概念にとらわれず、若者の発想とその動きを、新たな風を吹かせ、地域に「化学変化」を起こします。



若者たちの学びやとなっている「かみなか農楽舎」。飛躍するための力を蓄える場所だ（福井県若狭町で）

## 福岡中央会 県1JJA構想提起 全国最大規模の単協へ

JJA福岡中央会は8日、2009年度を境に県内の20JJAと中央会、連合会を統合し、県内1JJA化を目指すを発表した。実現すれば全国最大規模の単協JJAになる。販売力強化へ、農産物の「県産県消」を掲げる。同時に、スケールメリットを生かして資材の共同仕入れ、一括配送などを進め、農家所得の増大につなげる。

福岡市で開いた会議で明らかになった。県内全JJAの組合長らでつくる「JJAグループ福岡組織再編戦略推進委員会」（会長＝福岡市農林中央会）を1日、設立。中央会には全JJAから職員が出向するJJA改革・組織再編対策部を新たに立ち上げ、合併構想の具体的な検討を始めた。

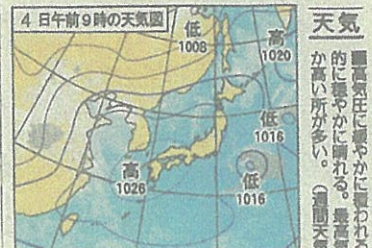
1JJA体制では総務・管理などの業務を新JJAの本館に移管し、コスト削減につながる。一方、現在のJJAごとに地区本部を設け、組合員の利便性を維持する。管内に生産地と消費地を抱える立地を生かして「県産県消」を進める。共同仕入れ、一括配送による生産コスト低減も見込む。

合併構想をめぐり、18年のJJA県大会で決断する。21年度のJJA総代会での意思決定を経て、22年度のJJA総代会を目指す。倉庫整備は、組合員の意向に沿った検討を進めるとした上で、モニター感覚を持ち、18年のJJA県大会である程度の結論を

品名	単価	前日比	前年比	平均単価
日農平均価格				
野菜主要14品目 (円/1kg)	187	▲16	▲18	117%
果実主要12品目 (円/1kg)	567	▲48	▲26	113%
切り花主要15品目 (円/1本)	57	▲9	▲4	98%

品名	単価	前日比	前年比	平均単価			
ダイコン	91	▲2	▲111%	シラヌヒ	380	▲26	124%
ニンジン	154	▲1	▲114%	リンゴ	243	▲4	—
ハクサイ	163	▲13	▲212%	イチゴ	1102	▲2	—
キャベツ	120	▲6	▲130%	アールス	1093	▲12	89%
ホウレンソウ	438	▲301	▲105%	一般メロン	721	▲15	103%
ネギ(白)	316	▲18	▲128%	小玉スイカ	492	▲14	100%
レタス(地球)	181	▲3	▲102%	切り花			
キュウリ	234	▲1	▲93%	菊類(輪菊)	57	▲4	96%
ナス	374	▲8	▲103%	バラ(ST)	89	▲15	104%
トマト(大玉)	333	▲2	▲82%	カーネ(ST)	50	▲5	107%
ピーマン	339	▲4	▲80%	ユリ(オリエンタル)	200	▲27	80%
ジャガイモ	216	▲9	▲153%	高級カスミンウ	77	▲12	107%
サトイモ	236	▲26	▲116%	トルコギキョウ	178	▲7	99%



広告についての  
ご意見・ご相談は  
JAROへ。  
www.jaro.or.jp  
☎(03)3541-2811  
受付時間  
9:30~12:00

その若い保険外交  
が全と取れず追いつ  
いた。訪問先に乳状  
反応はない。8度断  
の元へ行くが、呼び  
が強い。勇気振り  
の保険に入らなれど、  
は申し出を断る。保険の有用  
ず、哀れみでなされた。校  
業に打たれ「教育者である私  
と組織的な交渉を結んで  
名経営者市村清さんとの体験談  
動の要素」に「作家市川村  
編んだ書で、各界著者人か  
味」を教わる。罪をたたくと  
れ道。小さな野郎は、いつか大  
招へ。JJA新入職員はこれか  
すへ。追い返されたら、  
だけで適用する訳ではない。  
も自らのつとめをこれの  
と違。若者改革の懸念となる  
みんな新人。帝國ホテル料理  
村上信夫さんは鍋洗いが出た  
運かに入らなれど、名  
技とない言葉は新人は心に留め  
「それは準備し、努力した結果



# 「都会から集い 地域に巣立つ」

# 「託す」選択

# 若者力

## 継承—親方との8年



合同会社の「たごころ農園」を立ち上げた倉谷代表(左から2人目)と若者たち(福井県若狭町で)

## 今は大切なパートナー



「かみなか農楽舎」の下層代表(前列右から3人目)の下に集まった八代さん(前列右端)ら若者たち

「かみなか農楽舎」が未来を変えた—若狭町の挑戦

## 農地守る意味胸に

農家が先代々受け継いできた農地。その思いを若者たちは受け継ぐ。大阪市出身の八代恵理さん(85)は、若狭に生まれ、育ち、今も住まう。農地を守ることが、農家の命である。農地を守ることが、農家の命である。農地を守ることが、農家の命である。

午前8時、かみなか農楽舎の朝礼に、研修生や社員ら若者たち10人と地元農家が集まる。田植えに向けた準備や農機の手入れなどの作業を確認し、圃場(ほくみ)に向かう。

かみなか農楽舎は、農家の人材育成の場として2001年に設立。行政、企業、業者が出資した。米麦、野菜などの研修の場が半ひの場だ。1年目は栽培技術を実践で習得。2年目は現場責任者として栽培から販売ま



「たごころ農園」親方との関係を築いて農地を守ることに成功した。深川さんと橋本さんは8年を共にし、毎晩のようにつらかった。その内容は、納屋の整理や、農機の手入れなど。橋本さんは、農機の手入れに慣れた。その間に、農機の修理や、農機の手入れに慣れた。その間に、農機の修理や、農機の手入れに慣れた。



## 墨から手作り、仲間・地域に思い込め…「若者力」執筆者は高校生



「若者力」の題字を執筆した馬原さん(前列右から3人目)と書道部員(広島県神石高原町で)

本紙キャンペーン「若者力」の題字は、広島県立油木高校3年生で書道部部長の馬原由衣さん(17)が筆を揮った。馬原さんは、同校産業ビジネス科の手作り局。馬原さんは「仲間の作った墨の良さを引き出した」と話す。